

都市ガス・液化石油ガス及び毒劇物等
による事故に関する統計表

平成 18 年 6 月
消防庁危険物保安室

平成 17 年中の都市ガス及び液化石油ガスによる事故の概要

1 事故の発生状況

(1) 事故の発生件数

発生件数は前年に比べ減少

平成 17 年中に発生した都市ガス及び液化石油ガスによる事故(以下「ガス事故」という。)で消防機関が出場した件数は第 1 表のとおりである。

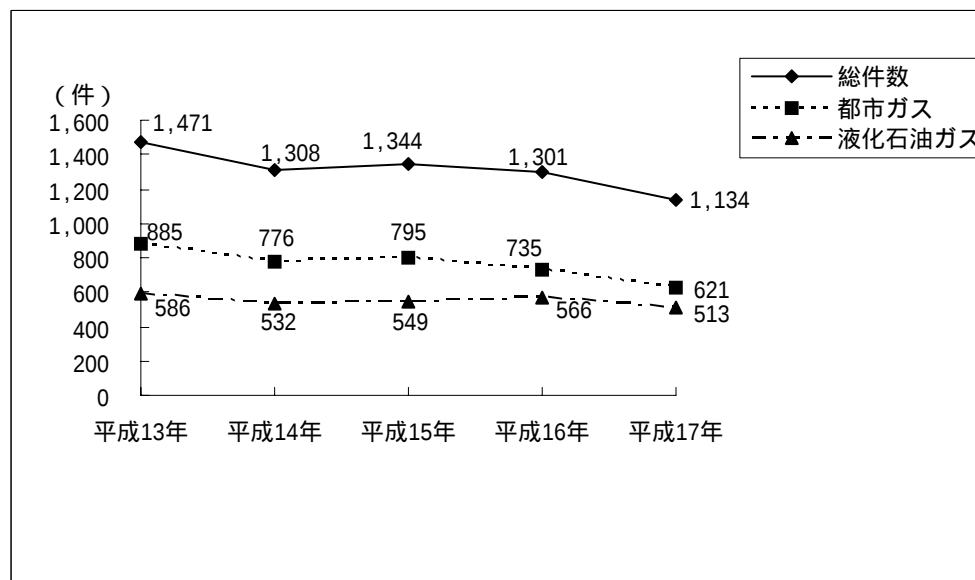
ガス事故の総件数は 1,134 件で、前年の事故件数と比べ 167 件(12.8%)の減少となっている。

ガスの種別ごとの事故件数をみると、都市ガスに係るものが 621 件で前年に比べ 114 件(15.5%)の減少、液化石油ガスに係るものが 513 件で前年に比べ 53 件(9.4%)の減少となっている。

また、平成 13 年からの発生件数の推移は、第 1 図のとおりであり、都市ガスの事故は、大きく減少している。

第 1 表 平成 17 年中のガス事故発生件数

年・増減		平成17年	平成16年	増 減	増減率
区 分		(イ)	(ロ)	(イ)-(ロ) (ハ)	(ハ)/(ロ)×100 (%)
件 数		1,134	1,301	-167	-12.8
	都 市 ガ ス	621	735	-114	-15.5
	液 化 石 油 ガ ス	513	566	-53	-9.4



第 1 図 平成 13 年から平成 17 年の発生件数の推移

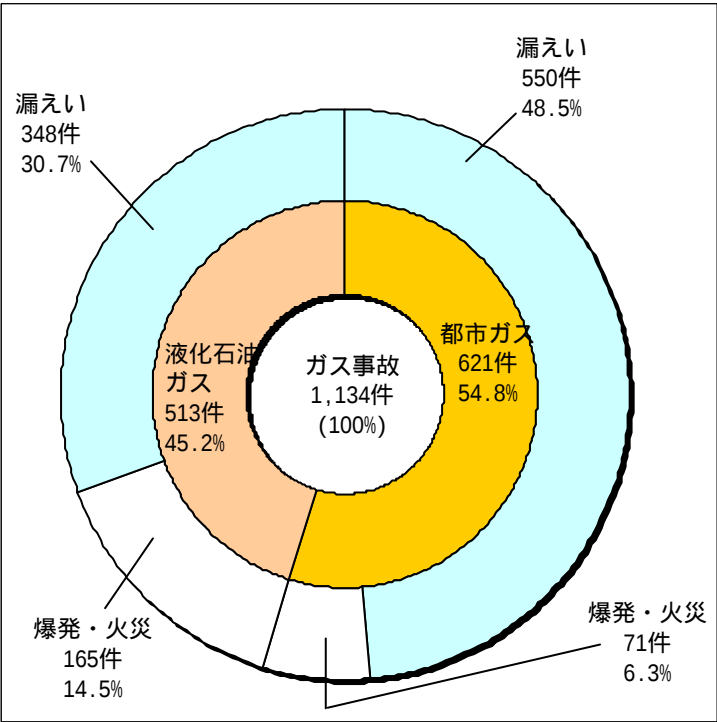
漏えい事故は、約 8 割

ガス事故を態様別にみると第 2 図のとおりであり、漏えい事故が 898 件（79.2％）、爆発・火災事故が 236 件（20.8％）である。

ガスの種別ごとにみると、都市ガスの事故は 621 件で、そのうち漏えい事故が 550 件（48.5％）、爆発・火災事故が 71 件（6.3％）である。また、液化石油ガスの事故は 513 件で、そのうち漏えい事故が 348 件（30.7％）、爆発・火災事故が 165 件（14.5％）である。

平成 13 年からの態様別の発生状況を見ると第 2 表のとおりである。ガス事故全体に占める漏えい事故は約 8 割で、残りの約 2 割が爆発・火災事故であり、過去 5 年間ほぼ同様の傾向を示している。

ガスの種別ごとにみると、都市ガスでは漏えい事故が約 9 割を占めているのに対し、液化石油ガスでは漏えい事故が約 7 割で、残りの約 3 割が爆発・火災事故である。



第 2 図 ガス事故の態様別発生件数(平成 1 7 年中)

第 2 表 態様別の発生状況の推移

区分 年	都 市 ガ ス		液化石油ガス		計	
	漏えい	爆発・火災	漏えい	爆発・火災	漏えい	爆発・火災
平成13年	811	74	429	157	1,240	231
	91.6	8.4	73.2	26.8	84.3	15.7
平成14年	670	106	354	178	1,024	284
	86.3	13.7	66.5	33.5	78.3	21.7
平成15年	708	87	335	214	1,043	301
	89.0	11.0	61.0	39.0	77.6	22.4
平成16年	659	76	366	200	1,025	276
	89.7	10.3	64.7	35.7	78.8	21.2
平成17年	550	71	348	165	898	236
	88.6	11.4	67.8	32.2	79.2	20.8

注) 各欄の上段は件数、下段は構成比(%)を示す。

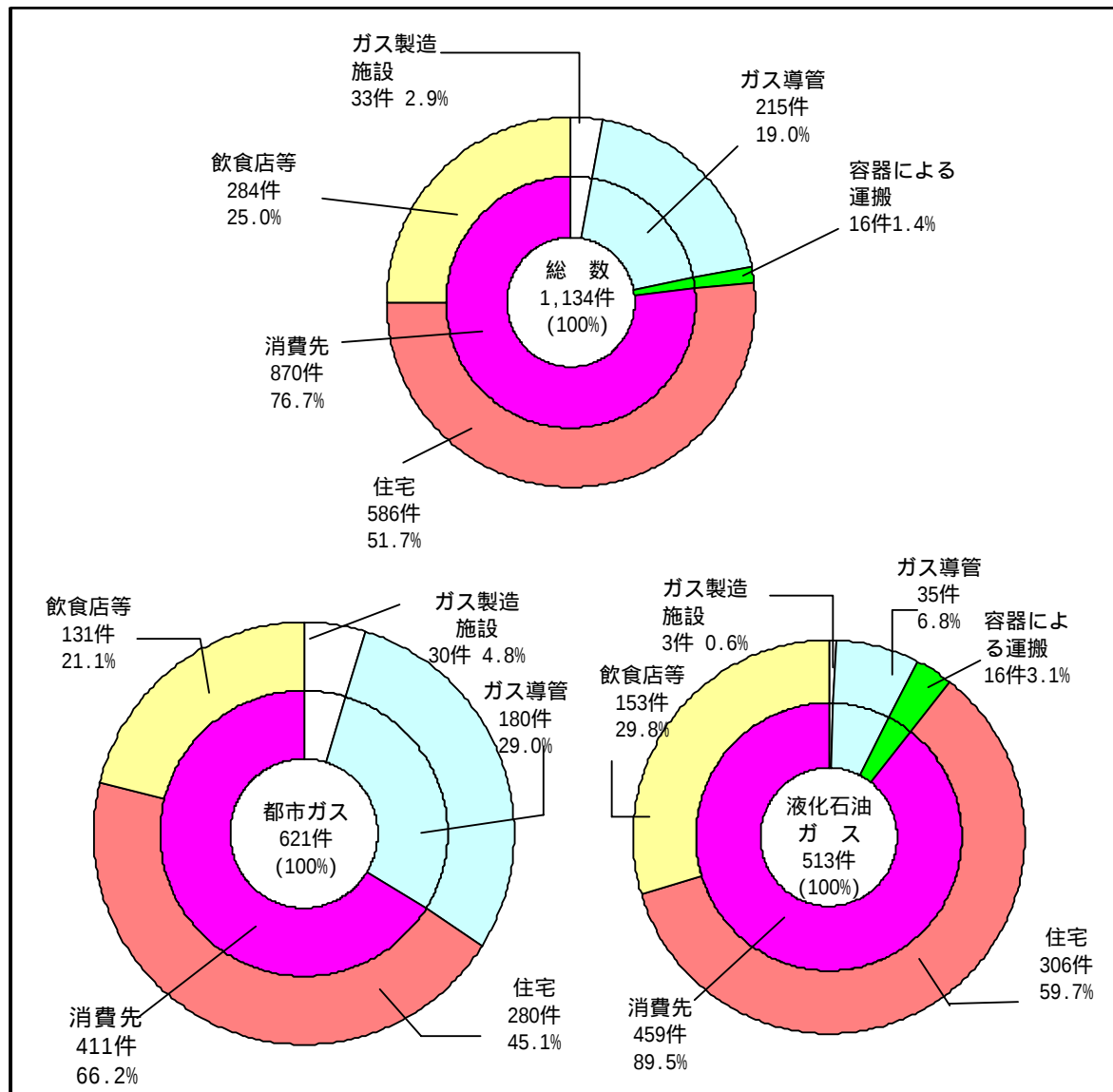
(2) 事故の発生場所別件数

ガス事故の約 8 割が消費先で発生し、そのうちの約 7 割は住宅で発生

ガス事故を発生場所別にみると第 3 図のとおりである。消費先におけるものが 870 件（76.7%）、ガス導管におけるものが 215 件（19.0%）となっている。

ガスの種別ごとにみると、都市ガスでは消費先におけるものが 411 件（66.2%）、ガス導管におけるものが 180 件（29.0%）であるのに対し、液化石油ガスでは消費先におけるものが 459 件（89.5%）、ガス導管におけるものが 35 件（6.8%）、容器による運搬中のものが 16 件（3.1%）である。

また、消費先における事故 870 件の内、586 件（67.4%）は住宅において発生している。

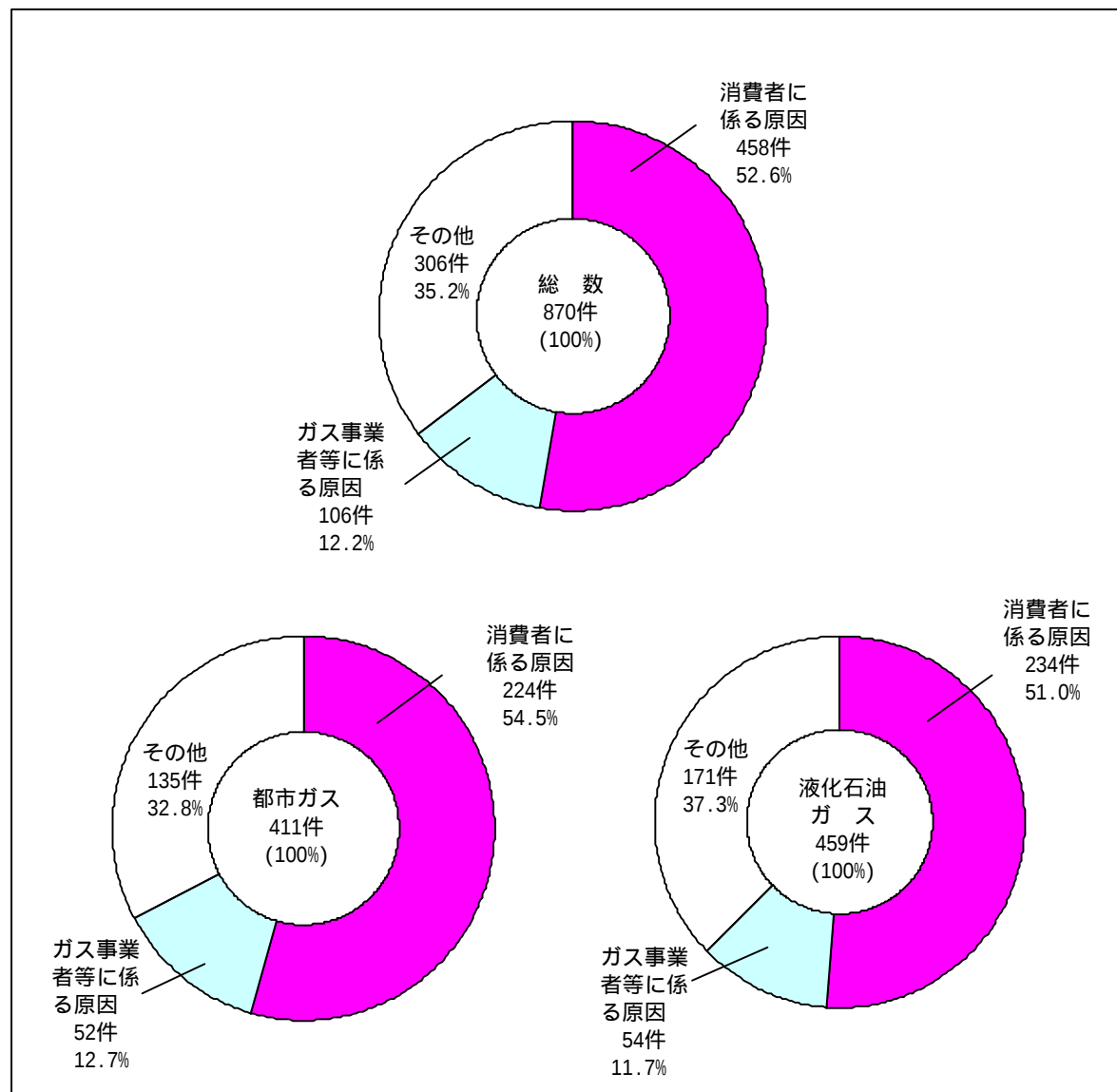


第 3 図 ガス事故の発生場所別件数（平成 17 年中）

(3) 消費先における事故の発生原因別件数

消費者に係る原因が約 5 割

消費先におけるガス事故の発生原因は第 4 図のとおりで、消費者に係るものが 458 件（52.6%）を占めている。ガスの種別ごとにみると、発生原因は、消費者に係るものが都市ガスでは 411 件中 224 件（54.5%）、液化石油ガスでは 459 件中 234 件（51.0%）となっており、過半を占めている。



第 4 図 消費先におけるガス事故の発生原因別件数（平成 17 年中）

依然多い消費者の不注意による事故

平成 13 年からの消費先における発生原因別の発生状況は、第 3 表のとおりである。平成 17 年は前年と比べると総件数は 97 件の減少となった。

消費者に係る原因のうち不注意によるものの占める割合は、消費先における事故全体の 45.2%を占めており、近年この傾向は変わっていない。

第 3 表 消費先における発生原因別発生状況の推移（平成 17 年中）

年	原因		ガス事業者 ・工事業者 に係る原因	そ の 他	計
	消費者に係る原因	不注意に よるもの			
平成 13 年	581 (52.2)	505 (45.4)	190 (17.1)	341 (30.7)	1,112 (100.0)
平成 14 年	555 (58.9)	453 (48.1)	110 (11.7)	277 (29.4)	942 (100.0)
平成 15 年	529 (55.2)	436 (45.5)	118 (12.3)	311 (32.5)	958 (100.0)
平成 16 年	505 (52.2)	428 (44.3)	123 (12.7)	339 (35.1)	967 (100.0)
平成 17 年	458 (52.6)	393 (45.2)	106 (12.2)	306 (35.2)	870 (100.0)

- 1 消費者に係る原因のうち「不注意によるもの」とは、
コックの誤操作又は火の立ち消え等による生ガスの放出、
器具・ホースの取扱い不良等によるもので、内数である。
- 2 各欄の（ ）内の数値は構成比（％）を示す。

2 ガス事故による死傷者

平成 17 年中に発生したガス事故による死傷者数は、第 4 表のとおりである。

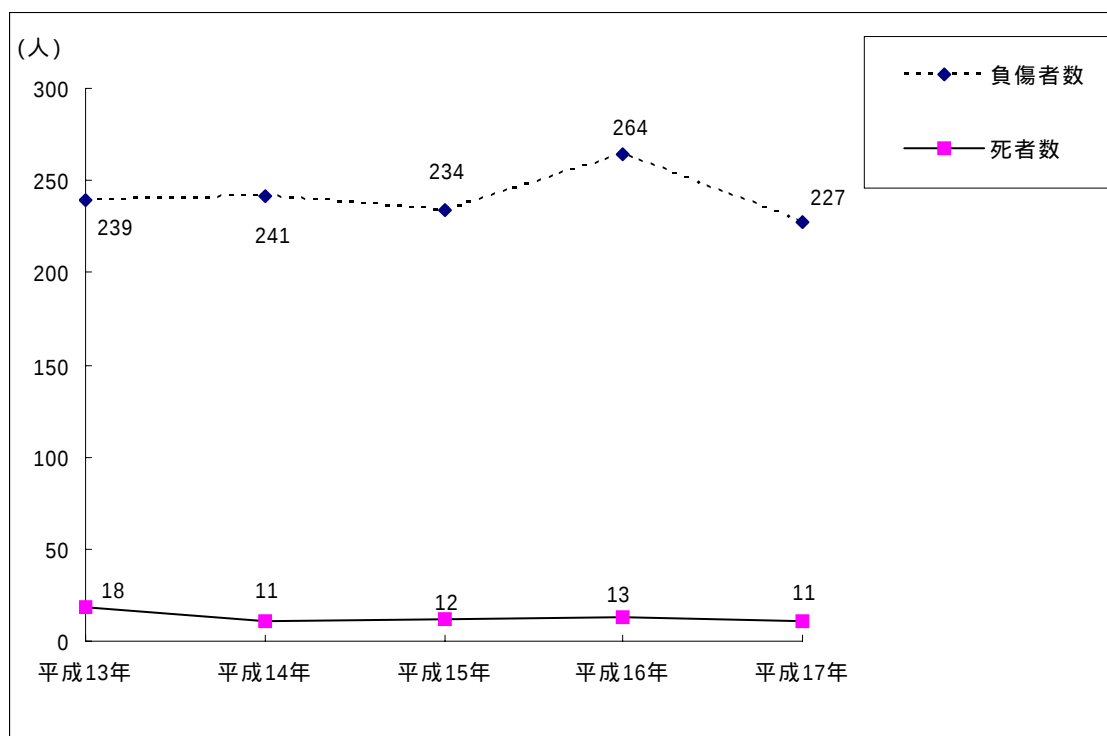
ガス事故による死者は 11 人で前年に比べ 2 人 (15.4%) の減少、負傷者は 227 人で前年に比べ 37 人 (14.0%) の減少となっている。

ガスの種別ごとにみると、死者は、都市ガスによるものが 1 人で前年に比べ 5 人 (83.3%) の減少、液化石油ガスによるものが 10 人で前年に比べ 3 人 (42.9%) の増加となっている。負傷者は、都市ガスによるものが 58 人で前年に比べ 27 人 (31.8%) の減少、液化石油ガスによるものが 169 人で前年に比べ 10 人 (5.6%) の減少となっている。

第 4 表 平成 17 年中のガス事故による死傷者数

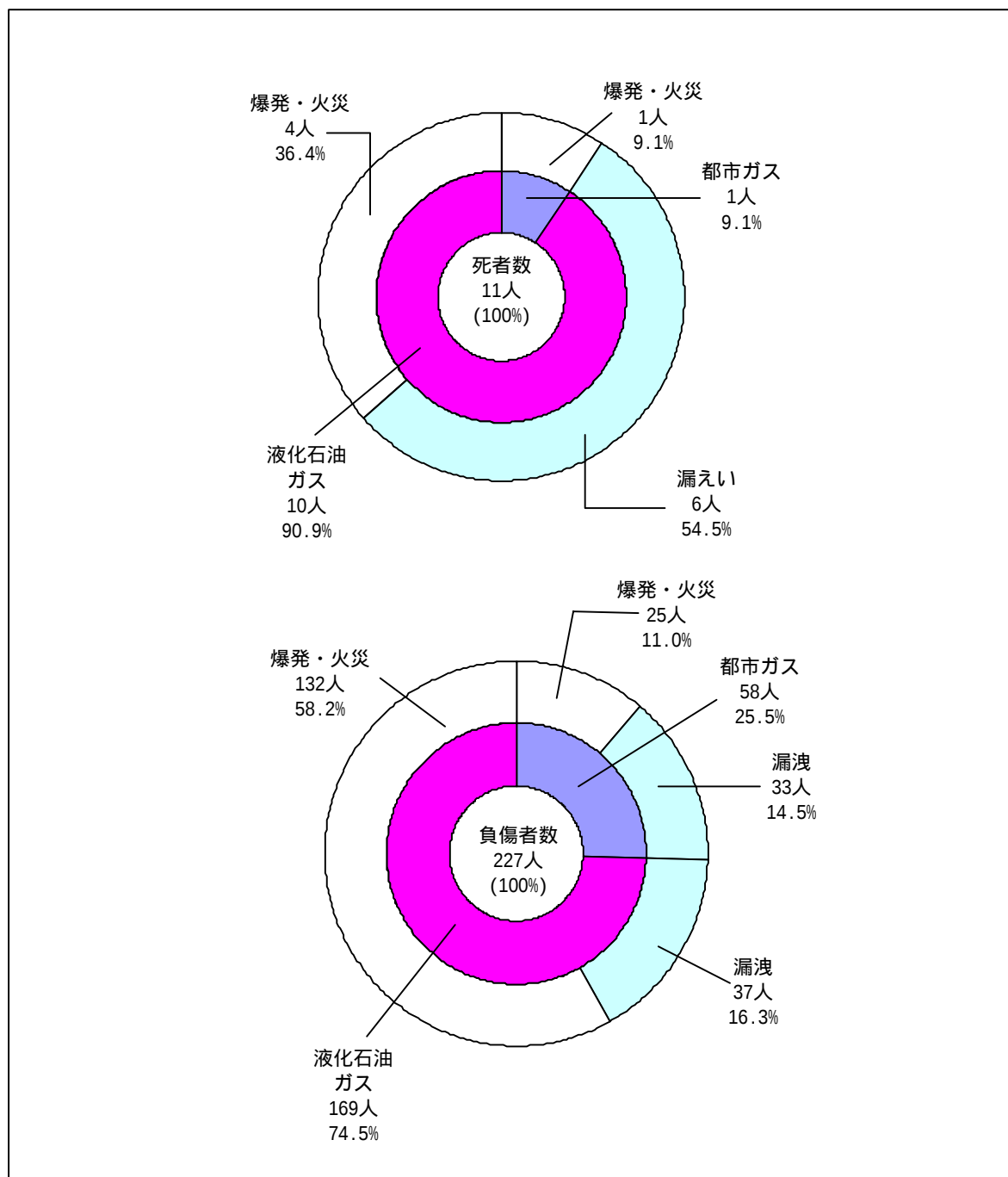
年・増減		平成 17 年	平成 16 年	増 減 (イ) - (ロ) (ハ)	増 減 率 (ハ) / (ロ) × 100 (%)
区 分		(イ)	(ロ)		
死 者 数	都 市 ガ ス	1	6	-5	-83.3
	液 化 石 油 ガ ス	10	7	3	42.9
	計	11	13	-2	-15.4
負 傷 者 数	都 市 ガ ス	58	85	-27	-31.8
	液 化 石 油 ガ ス	169	179	-10	-5.6
	計	227	264	-37	-14.0

平成 13 年からの死傷者数の推移は第 5 図のとおりである。



第 5 図 平成 13 年からの死傷者数の推移

死傷者数を態様別にみると第 6 図のとおりである。死者数では、漏えい事故によるものが 11 人中 6 人（54.5%）、爆発・火災事故によるものが 5 人（45.5%）となっている。また、負傷者数では漏えい事故によるものが 227 人中 70 人（30.8%）、爆発・火災事故によるものが 157 人（69.2%）となっている。

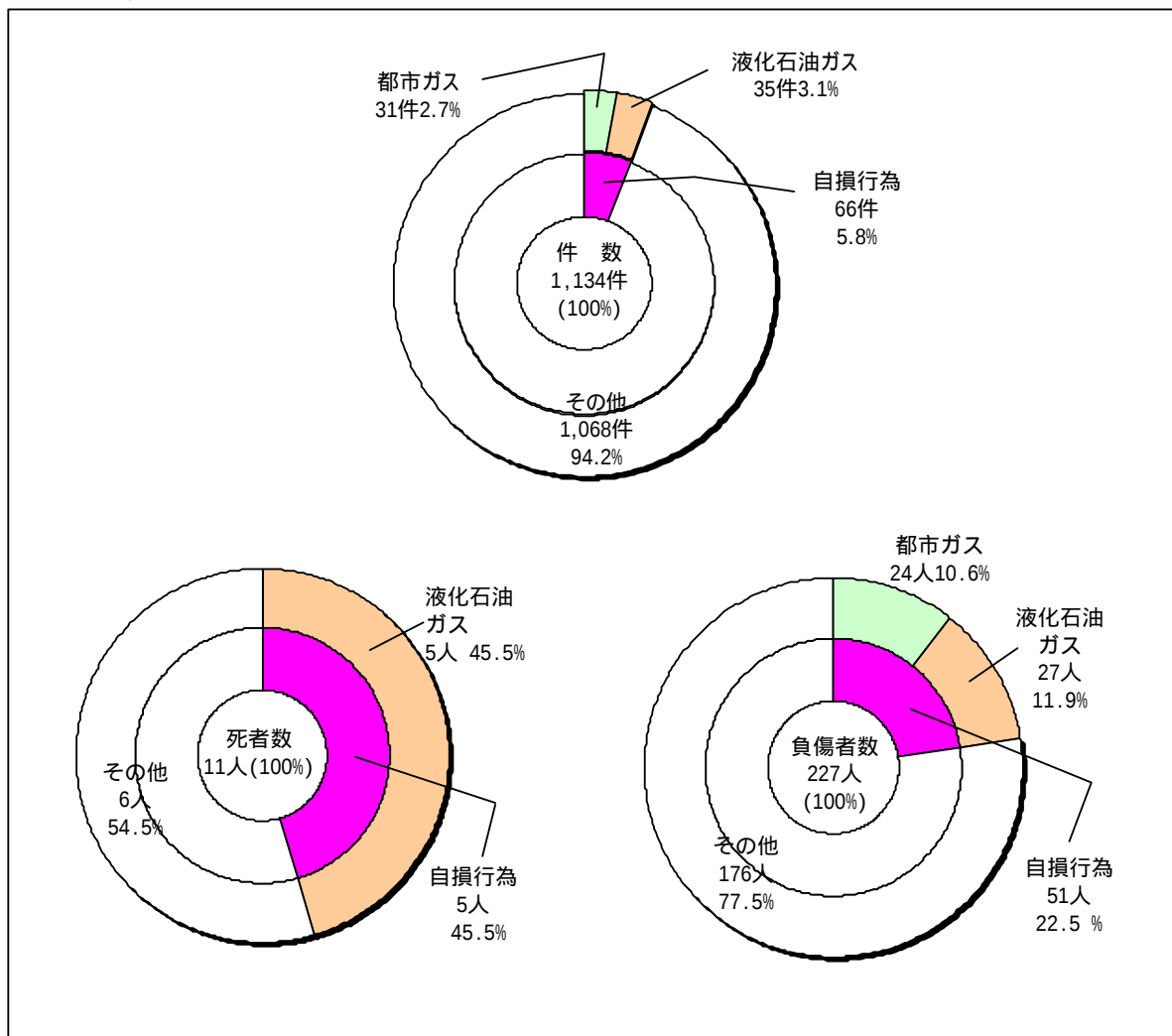


第 6 図 ガス事故による死傷者数（平成 17 年中）

3 自損行為によるガス事故

死者の約5割は自損行為

ガス事故のうち、自損行為に起因する事故は第7図のとおりである。件数は66件（5.8%）で、これらの事故による死者は5人（45.5%）、負傷者は51人（22.5%）となっている。



第7図 ガス事故のうち自損行為に起因する件数及び死傷者数（平成17年中）

4 まとめ

平成 13 年からのガス事故の総件数は減少傾向にあり、特に、都市ガスの事故が大きく減少している。

ガス事故の約 8 割は漏えい事故で、残りの約 2 割が爆発・火災事故である。これは、過去 5 年間同様の傾向を示している。また、ガス事故の約 8 割は消費先において発生しており、そのうちの約 5 割は消費者に係る原因によるものである。

死傷者については、過去 5 年間をみると死者数及び負傷者数ともに変わらない。なお、死者のうち約 5 割は自損行為によるものである。

平成 17 年中の毒劇物等による事故の概要

1 毒劇物等による事故の発生状況

(1) 事故の発生件数

平成 17 年中に発生した毒劇物等(毒物及び劇物取締法第 2 条に規定されている物質並びに一般高圧ガス保安規則第 2 条に定める毒性ガス)による事故で消防機関が出場した件数は第 5 表のとおりである。

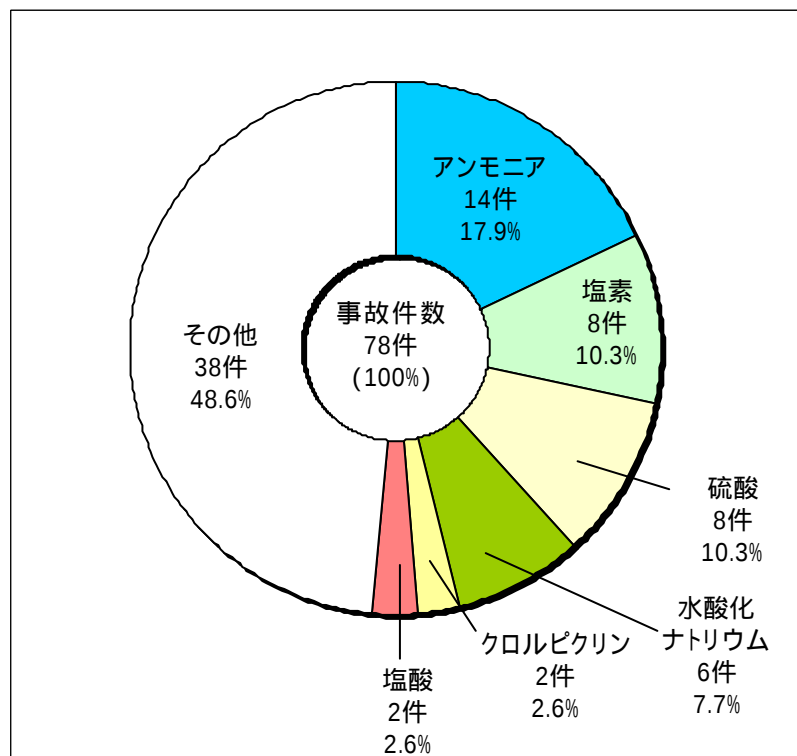
事故件数は 78 件で、前年に比べ 11 件(16.4%)の増加となっている。また死者は 6 人で前年に比べ 4 人(200.0%)の増加、負傷者は 61 人で前年に比べ 8 人(11.6%)の減少となっている。

第 5 表 平成 17 年中の毒劇物等による事故発生件数

年・増減		平成17年 (イ)	平成16年 (ロ)	増 減 (イ)-(ロ) (ハ)	増減率 (ハ)/(ロ)×100 (%)
区 分	事故件数(件)	78	67	11	16.4
	火 災	9	8	1	12.5
	漏 出	46	50	-4	-8.0
	その他	23	9	14	155.6
死傷者数(人)		67	71	-4	-5.6
	死 者	6	2	4	200.0
	負傷者	61	69	-8	-11.6

(2) 毒劇物等による事故の内訳

平成 17 年中の毒劇物等による事故の内訳をみると、第 8 図のとおりである。
アンモニア 14 件(17.9%)、塩素が 8 件(10.3%)、硫酸が 8 件(10.3%)、水酸化ナトリウムが 6 件(7.7%)、クロルピクリンが 2 件(2.6%)、塩酸が 2 件(2.6%)となっている。



第 8 図 毒劇物等による事故の内訳

2 圧縮アセチレンガス等消防機関に届出を要する物質に係る火災の状況

(1) 火災の発生件数

発生件数は前年に比べ減少

平成 17 年中に発生した圧縮アセチレン等消防機関に届出を要する物質（以下「圧縮アセチレンガス等届出物質」という。）に係る火災の発生件数は第 6 表のとおりである。

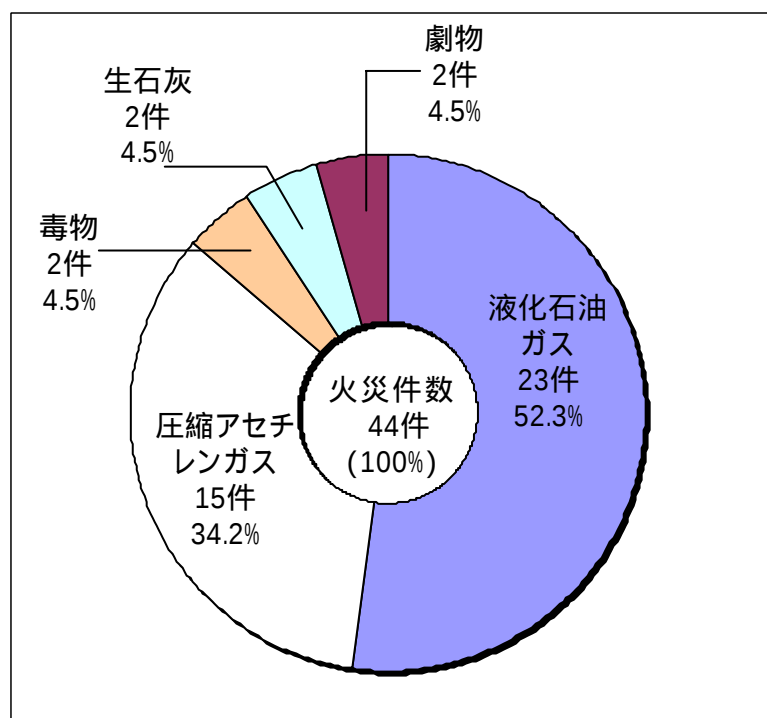
火災の発生件数は 44 件で、前年に比べ 30 件(40.5%)の減少となっている。また、死者は 1 名で、前年に比べ 4 件（80.0%）、負傷者は 28 人で前年に比べ 28 人(50.0%)の減少となっている。

第 6 表 平成 17 年中の圧縮アセチレンガス等届出物質に係る火災の内訳

年・増減 区 分	平成17年 (イ)	平成16年 (ロ)	増 減 (イ) - (ロ) (ハ)	増 減 率 (ハ) / (ロ) × 100 (%)
火災件数(件)	44	74	-30	-40.5
死 者(人)	1	5	-4	-80.0
負 傷 者(人)	28	56	-28	-50.0

(2) 圧縮アセチレンガス等届出物質に係る火災の内訳

平成 17 年中の圧縮アセチレンガス等届出物質に係る火災の内訳をみると、第 9 図のとおりである。液化石油ガスに係る火災が 23 件(52.3%)、圧縮アセチレンガスに係る火災が 15 件(34.2%)、毒物に係る火災が 2 件(4.5%)、生石灰に係る火災が 2 件(4.5%)、劇物に係る火災が 2 件(4.5%)となっている。



第 9 図 圧縮アセチレンガス等届出物質に係る火災の内訳

別表 1

ガス事故件数及び死傷者数（全国）

（平成 17 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

ガス種別 事故の態様	都 市 ガ ス						液化石油ガス			計		
				簡 易 ガ ス								
	件 数	死 者	負傷者	件 数	死 者	負傷者	件 数	死 者	負傷者	件 数	死 者	負傷者
爆発・火災事故	71	1	25	10	0	4	165	4	132	236	5	157
	(5)	(0)	(6)	(1)	(0)	(1)	(10)	(1)	(11)	(15)	(1)	(17)
爆発のみに 留まったもの	5	0	2	1	0	2	38	0	35	43	0	37
	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(4)	(0)	(5)	(4)	(0)	(5)
漏 え い 事 故	550	0	33	1	0	0	348	6	37	898	6	70
	(26)	(0)	(18)	(0)	(0)	(0)	(25)	(4)	(16)	(51)	(4)	(34)
計	621	1	58	11	0	4	513	10	169	1,134	11	227
	(31)	(0)	(24)	(1)	(0)	(1)	(35)	(5)	(27)	(66)	(5)	(51)

注）この表は都市ガス及び液化石油ガスに係る爆発・火災事故及び漏えい事故（以下「ガス事故」という。）の件数及び死傷者数について調査したもので、その記載は次によった。

1 ガス事故の態様の別は以下による。

(1) 爆発・火災事故：都市ガス又は液化石油ガスが着火物となって生じた爆発・火災をいう。

なお、爆発のみで留まったものについては該当欄に再掲した。

(2) 漏えい事故：人的損害を生じ、又はそのまま放置すれば爆発・火災若しくは人的損害を生じるおそれがある都市ガス又は液化石油ガスの漏えいであって、消防機関が出場したもののうち、(1)に該当しないものをいう。

2 都市ガスとはガス事業法第 3 条又は第 37 条の 2 の許可を受けたガス事業者によって供給されるガスをいい、簡易ガスとはガス事業法第 37 条の 2 の許可を受けたガス事業者によって供給されるガスをいう。

3 自損行為に起因する事故については各欄の（ ）内にその数を再掲した。

別表 2

ガス事故発生場所別被害状況調（全国）

（平成 17 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

発生場所 ガス種別		ガス製造		容 器 に		消 費 先							計
		施 設	ガス導管	よる 運搬	住 宅		旅 館	飲食店	学 校 病 院	工 場	その他の 事 業 所	小 計	
						共同住宅							
都市ガス	件 数	30 (1)	180 (12)	0 (0)	280 (41)	137 (19)	0 (0)	44 (12)	4 (1)	7 (1)	76 (3)	411 (58)	621 (71)
	死 者	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)
	負 傷 者	0 (0)	5 (4)	0 (0)	42 (12)	31 (8)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	6 (4)	53 (21)	58 (25)
液化石油ガス	件 数	3 (0)	35 (2)	16 (7)	306 (96)	137 (40)	6 (2)	44 (17)	4 (1)	26 (15)	73 (25)	459 (156)	513 (165)
	死 者	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (3)	4 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	10 (4)	10 (4)
	負 傷 者	0 (0)	6 (4)	10 (9)	88 (66)	51 (30)	5 (3)	22 (19)	0 (0)	14 (13)	24 (18)	153 (119)	169 (132)

注）この表は、ガス事故の発生場所別の被害状況を調査したもので、その記載については、別表 1 の注 1 及び注 2 によるほか、次によった。

- 1 ガス製造施設の欄には、ガス事業者の敷地内にある施設又は液化石油ガスの製造業者若しくは販売業者の敷地内にある施設における事故について記載した。
- 2 ガス導管の欄には、都市ガスにおけるガス導管又は液化石油ガスにおける供給管（道路等第三者の敷地内に設置されているもののみ。）のうち消費先の建物内を除く部分で発生した事故について記載した。
- 3 容器による運搬の欄には、液化石油ガスを容器により運搬中に発生した事故について記載した。
- 4 消費先の欄には、都市ガスにあっては消費先の建物内のガス導管からガス器具までの部分、液化石油ガスにあっては、消費先のガスボンベからガス器具までの部分（道路等第三者の敷地内に設置されている供給管の部分を除く。）において発生した事故について、それぞれ該当する区分の欄に記載した。
- 5 表中各欄の（ ）内には、爆発・火災に係る被害について再掲した。

別表 3

消費先におけるガス事故発生原因別件数（全国）

（平成 17 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

事 故 原 因 の 別		ガ ス 種 別		液化石油 ガ ス	計
		都市ガス	簡易ガス		
ガ工 ス事原 事業因 業者 者に ・係	ガス器具の欠陥によるもの	1 (0)	0 (0)	5 (0)	6 (0)
	工事不良・維持管理不良によるもの	50 (1)	1 (1)	49 (6)	99 (7)
	ガス漏えい発見後の不適切な処理によるもの	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
消 費 者 に 係 る 原 因	コックの誤操作・火の立ち消え等による生ガスの放出によるもの	92 (15)	0 (0)	66 (39)	158 (54)
	器具・ホースの取扱い、管理不良によるもの	105 (24)	1 (1)	130 (66)	235 (90)
	ガス漏えい発見後の不適切な処理によるもの	0 (0)	0 (0)	6 (2)	6 (2)
	自損行為によるもの	27 (4)	1 (1)	32 (8)	59 (12)
そ の 他	いたずら等故意によるもの	2 (0)	0 (0)	10 (1)	12 (1)
	不明・その他	133 (14)	6 (6)	161 (34)	294 (48)
計		411 (58)	9 (9)	459 (156)	870 (214)

注）この表は、消費先（別表 2 の注 4 による）におけるガス事故の主要原因と考えられるものについて、その件数を調査したもので、記載にあたっては、別表 1 の注 1 及び注 2 によるほか次によった。

- 1 原因が重複して考えられるものは主たるものについてのみ計上した。
- 2 表中各欄の（ ）内には、爆発・火災による件数を再掲した。

別表 3-2

ガス器具の欠陥による消費先におけるガス事故の概要

(平成17年1月1日～12月31日)

発生日	都道府県	事故の原因及び概要
1月26日	北海道	ナットのネジ山がつぶれかけており、完全に閉まりにくい状態であったため、ボンベ交換時にボンベ接続部とホース部との接合不良により、液化石油ガスが漏えいしたものの
2月9日	高知県	安全弁を交換する際に、液化石油ガスが漏えいしたものの
5月7日	神奈川県	調理場内で都市ガス用ガスコンロを接続したところ、器具本体の配管が腐食していたためガスが漏えいしたものの
8月29日	三重県	調理器の製品不良（気密不良）により、液化石油ガスが微量漏えいしたものの
9月1日	茨城県	集中配管供給設備の二段一次調整弁の弁内に、ダイヤフラムの破裂が1箇所あり、液化石油ガスが漏えいしたものの
9月28日	京都府	不完全燃焼で点火せず、液化石油ガスが漏えいしたものの

別表 4

死者の発生した主なガス事故の概要

(平成 17 年 1 月 1 日 ~ 12 月 31 日)

月日	場 所	態 様	ガス種別	死者 数	負傷 者数	概 要 ・ 原 因
3月21日	愛知県	漏えい	液化石油ガス	1	0	作業者が、住宅の玄関先でガス管の埋設工事中に噴出した液化石油ガスにより、工事のために掘られた穴の中で中毒症状を起こしたものの。
5月1日	山梨県	爆発 火災	液化石油ガス	1	0	台所で料理をするためにガステーブルに火を付けたことを忘れたために、長時間にわたってゴムホースが加熱され、ホースに穴が開き、漏えいした液化石油ガスに着火し建物に延焼拡大したものの。
8月4日	千葉県	漏えい	液化石油ガス	1	0	団地の解体業者よりガスの供給を停止する指示を受け、ガス業者が作業を実施していたが、この団地は集中管理システムのため元栓を締めることができなかったため、敷地内のガス管を切り止める方法で実施していたところ、作業ミスによりガスを吸引してしまったもの
11月25日	神奈川県	爆発 火災	液化石油ガス	1	2	居室内に充満したプロパンガスに何らかの火源が引火し、木造2階建て共同住宅1棟が焼損したものの
12月6日	大阪府	爆発 火災	液化石油ガス	1	2	ガスコンロで湯を沸かしていたところ、ガスコンロが消えたと勘違いし、ポンベ交換のためガスホースをはさみで切断しようとした際、ホース接続部から噴出したプロパンガスがガスコンロの火により着火し、出火したものの
12月24日	新潟県	爆発 火災	都市ガス	1	0	住宅の1階寝室に置かれたガスファンヒーター本体及び、周辺の床板を破損した建物火災で、寝ていた女性が一酸化炭素中毒で死亡したものの。原因は、ガスファンヒーターのガス接続部の形状に適合しないガスホースを接続したために、接続部が緩みガスが漏れ、運転中のガスファンヒーター内のバーナーに引火したものの

別表 5

消防機関に届出を要する物質（圧縮アセチレンガス等）に係る火災状況

（平成 17 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

物質の区分 発生件数等	圧縮アセチレンガス	無水硫酸	液化石油ガス	生石灰	政令別表第 1 に定める毒物	政令別表第 1 に定める劇物	計
件 数	15	0	23	2	2	2	44
死 者	0	0	1	0	0	0	1
消防活動従事者	0	0	0	0	0	0	0
負 傷 者	6	0	21	0	0	1	28
消防活動従事者	0	0	1	0	0	0	1

注）この表は、消防法第 9 条の 2 の規定により、貯蔵又は取扱いに際して、あらかじめ消防長又は消防署長に届け出ることを要する物質（消防法第 9 条の 2 ただし書きの物質も含む。）に係る火災（爆発のみに留まったものを含む。）について調査したもので、その記載については次によった。

- 1 自損行為に起因するものを含めた。
- 2 死者及び負傷者のうち、消防職員及び消防団員については、消防活動従事者の欄に再掲した。

平成 17 年中の毒劇物等の事故状況

(平成 17 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

発生月日	都道府県	毒劇物等の名称	事故の区分			死者数		負傷者数		事故の原因及び概要
			火災	漏えい	その他	従事者		従事者		
1月9日	宮崎県	クロロピクリン			○			1		農業用作業機を修理中、薬剤噴霧口から土壤消毒薬が噴射し、両眼に入ったもの
1月10日	千葉県	発煙硫酸、よう素		○						発煙硫酸の廃液からよう素を抽出する設備の配管が外れ、よう素ガスが漏えいしたものの
1月12日	新潟県	アクリルニトリル		○						水溶性接着剤を車両に積載し発進した際、荷台から落下し、構内に拡散したもの
1月23日	愛知県	一酸化炭素			○			1		自宅で練炭を使用中、具合が悪くなったもの
1月24日	岡山県	一酸化炭素57%、水素15%、二酸化炭素11%、メタン6%、窒素9%他の混合ガス		○		2		1		分塊工場にて、鋼塊を均一に加熱し圧延する均熱炉を立ち上げ作業中、作業員が作業手順を誤ったため、混合ガスがろうえいしたもの
2月1日	東京都	アンモニア		○						共同住宅の1階居室にあるワインクーラーから冷媒のアンモニアが漏洩したもの
2月5日	神奈川県	塩素			○			1		屋外の硫酸タンクへ次亜塩素酸ナトリウムを誤って注入したため、塩素が発生し、塩素を吸入した注入者が負傷したもの
2月9日	愛知県	水酸化ナトリウム			○			1		工場で作業中、誤って水酸化ナトリウムが左目に入ったもの
2月26日	東京都	硝酸			○			1		誤って硝酸をかぶり顔面を受傷したもの
3月9日	山口県	フッ化水素		○				2		無水フッ素を槽に仕込む際、無水フッ素を完全に除去するための真空引きを怠り、窒素バージを1回しか行わなかったため、継ぎ手の中に無水フッ素が残り、取り出し中に飛散したもの
3月26日	新潟県	一酸化炭素			○			1		瞬間湯沸かし器の不完全燃焼
3月26日	沖縄県	アンモニア		○						アンモニア配管の逆止弁の修理完了後、試運転の際にガスが漏えいしたもの
4月5日	東京都	シアン化ナトリウム			○			1		誤ってメッキ剥離槽から出てくるシアンガスを吸引したもの
4月8日	岡山県	硫化水素		○		2		2	1	積み荷の硫化水素を降ろした後、船長が船倉内を清掃中に倒れ、救助しようとした他の船員も被災したもの 被災者をヘリコプターで搬送中、被災者の衣服等に付着していた硫化水素を吸引した消防職員が負傷したもの
4月13日	静岡県	フッ酸		○				1		工場内のフッ酸分析室内において、フッ酸ボンベの残ガス処理中に漏えいしたもの
4月14日	石川県	リン化アルミニウム	○							敷地内の屋外ごみ集積場にあった、使用済みのリン化アルミニウム薫蒸剤が未分解であったため、雨水と化学反応し出火したもの
4月25日	新潟県	メタノール	○					1		鋳物用塗料剤（メタノール含有）を運搬作業中に転倒させたため、こぼれた塗料材に鋳型乾燥の火が引火し、衣服に着火したもの

4月26日	和歌山県	一酸化炭素		○	1		出口水封弁に補給水を供給したことにより、オーバーフロー管のシールボットに多量のオーバーフロー水が流入し、シールボットのシール切れが発生したことにより一酸化炭素が漏えいしたもの
4月27日	千葉県	クロロホルム		○		4	店内のトイレ前で白い煙のようなものが立ち上がり、店内の客が喉の痛みや吐き気を訴えたもの
4月27日	三重県	モノシラン	○				回収したボンベに残っているモノシラン及びモノシラン混合ガスを燃焼処理していたが、何らかの原因で着火し、爆発したもの
4月29日	東京都	硫化水素		○		4	地下1階の汚水ピット内で作業中に洗剤に起因して発生した硫化水素ガスにより作業員4名が中毒を起こし2名がピット内で倒れたもの
5月1日	新潟県	硫酸	○			1	亜塩素酸ナトリウムの結晶が入っているバケツの中に、硫酸・過酸化水素の混合液が染み込んだウエスを入れたことにより、分解反応が起こり、反応熱によりウエスが燃焼したもの
5月17日	東京都	過酸化水素		○		2	作業所併用事務所において絵画の漂白作業中に噴霧器が破裂して過酸化水素が漏洩し、2名が受傷したもの
5月19日	山口県	塩酸		○			道路路上に黄色い液体が流出しているのを通行人が発見した際、白煙と鼻を突く刺激臭が漂っていたもの
5月20日	東京都	フッ化水素		○		1	フッ化水素容器の蓋がはずれて漏洩し左手を化学熱傷したもの
5月21日	東京都	クレゾール		○			クレゾールの散布による異臭
6月1日	鹿児島県	硫化水素		○		2	酒粕を貯蔵するタンクで酒粕を汲みあげる作業をしていたところ、タンク内の換気を行っていなかったため、タンク内で作業員が倒れたもの
6月4日	大阪府	硝酸		○			メッキ工場内において、作業員が硝酸3～4Lを誤って床面にこぼし、希釈しようと散水したところ発煙したもの
6月7日	大阪府	水酸化ナトリウム		○		11	荷役中、タンカー側で漏えいしたためバルブを閉止したところ、ウォーターハンマー現象が起き、地上配管2箇所で漏えいしたもの
6月10日	岡山県	塩化水素ガス		○			配管を乾燥する工程において、乾燥が不十分であったため、原料と残留水が反応して塩素ガスが発生したもの
6月10日	兵庫県	硫酸		○			耐圧ゴムホースを使用して硫酸を移送していたところ、ゴムホースが腐食していたため亀裂が生じ、硫酸約5.4立方メートルが流出したもの
6月10日	山口県	メタクリル酸水溶液(80%)		○		1	作業員Aが移動タンクからの荷卸後、注入ホースの車側の結合部を切離し、残液を抜く作業をしていたところ、作業員BがAの作業状況を確認せずに配管のエアー抜きのためにバルブを開いたところ屋外タンクからメタクリル酸80%水溶液が漏えいしたもの
6月15日	静岡県	シアン化ナトリウム		○			シアン化ナトリウム運搬中に缶が落下し漏えいしたもの
6月18日	東京都	アンモニア		○			共同住宅の2階居室内のワインセラーの冷媒管から腐食のためアンモニアが漏洩したもの
6月28日	岐阜県	硫酸		○			工場の解体作業中、重機でコンクリート槽を解体したところ、槽内に滞留していた硫酸が排水溝より河川に流出したもの
7月4日	埼玉県	クロルピクリン		○			民家の物置で農薬として使用されるクロルピクリンの容器が腐食し、漏えいしたもの
7月5日	新潟県	クロルメチル		○			反応機とコンデンサをつなぐガス導管部に設けられているハンドホールノズルの溶接部において、応力腐食割れが発生し、クロルメチルを含む有機ガスが漏えいしたもの

7月9日	愛知県	トルエン			○			1	自宅でトルエンを吸引後、頭が痛くなったもの
7月10日	東京都	アンモニア		○					共同住宅の20階居室内のワインセラーから何らかの原因によりアンモニアが漏洩したもの
7月17日	愛知県	アンモニア			○				一般住宅で、目に強い刺激と息詰まるような刺激臭が発生したもの
7月27日	愛媛県	塩素			○				食肉加工業者が加工機材を殺菌するため、殺菌洗浄液をつくる過程で誤って、次亜塩素酸ソーダと塩酸を混合し塩素が発生したもの
8月11日	新潟県	アゾビス	○					3	低温倉庫に貯蔵されていたアゾビスが、事故反応を起こし発熱発火したもの
8月12日	千葉県	アンモニア		○					冷凍機をアンモニアからフロンガスに切換え工事中、配管内のアンモニアが漏えいしたもの
8月15日	群馬県	三フッ化窒素		○					三フッ化窒素製造工場において、充填ラインの切換えバルブを操作した際、バルブが破損し漏えいしたもの
8月22日	長崎県	リン化アルミニウム	○						リン化アルミニウム燐蒸剤で燐蒸をしていたところ、化学反応が完全に終了していなかったために、化学反応により発生するリン化水素が爆発濃度に達し、反応熱により出火したもの
8月23日	広島県	アンモニア		○					交通事故により、タンクローリーの払出バルブが等が緩み、配管内の液化アンモニアが路上に漏えいしたもの
8月26日	神奈川県	塩素		○					塩素ガス除外設備からの逆圧により漏えいしたもの
8月28日	神奈川県	硫酸、過酸化水素混合液（硫酸25%、過酸化水素9%）		○					屋外タンクに貯蔵されている硫酸と過酸化水素の混合液が、屋外タンク下部の配管とバルブとの接続部より、経年振動による緩みのため防油堤内に漏えいしたもの。
8月31日	東京都	アンモニア		○					共同住宅の3階居室内のワインセラーから何らかの原因によりアンモニアが漏洩したもの
9月5日	群馬県	生石灰	○						ベランダに置かれたダンボール内の生石灰に雨水がかかり出火したもの
9月5日	栃木県	水酸化ナトリウム		○					屋外貯蔵タンクから隣接の屋外貯蔵タンクに内容物を移し替える作業中、オーバーフローパイプから水酸化ナトリウムが流出し、排水監視槽に流入したもの
9月6日	千葉県	アンモニア		○					アンモニア冷凍機のレシーバータンク高圧側配管のエア抜きのため、ホースを使用し、アンモニア水を側溝に流したもの
9月7日	愛知県	発煙硫酸		○					発煙硫酸送液用ポンプ軸受けベアリングの磨耗により生じた軸封部メカニカルシールより、約2kgの発煙硫酸が漏えいしたもの
9月7日	山口県	塩素		○				2	タンクの配管フランジのパッキンを取り替える際、タンク内のペーパーを吸引するブロワーが不調のため、ペーパーの排気が十分でなく、フランジをはずしたときに内部に残存していた塩素ガスが漏れたもの
9月8日	岡山県	硫化水素		○				3	硫化水素ガスの抜き取りが完全でなかったため、硫黄回収装置へ仕切り板を挿入するために緩めたフランジ部から、硫化水素が漏れいしたもの
9月10日	福岡県	アンモニア		○					配管の破損により、周囲にアンモニアガスが漏れいしたもの

9月11日	大阪府	塩素		○			3	スポーツクラブで、プール消毒用の次亜塩素酸溶液と水処理凝集剤のポリ塩化アルミニウムを誤って混合したため、多量の塩素ガスが発生し、空調設備を介して循環し館内全体に拡散したもの
9月21日	滋賀県	水酸化ナトリウム		○				メインタンクからサブタンクへ液を移送していたところ、移送していることを忘れて帰宅したために、水酸化ナトリウムが漏れ出したもの
10月6日	東京都	塩素			○		2	道路の側溝から何らかの原因で塩素が発生し、通行人2名が吸引し受傷したもの
10月7日	静岡県	塩化水素ガス			○			運搬業者が注入口の確認を怠り、誤って硫酸タンクに塩酸を荷卸したために塩化水素ガスが発生したもの
10月14日	北海道	アンモニア		○				冷媒装置の点検のために、オイルセパレーターのオイルを抜き取る作業中、オイルゲージの異常によりアンモニアが漏れ出したもの
10月16日	群馬県	リン化アルミニウム			○			米倉庫を消毒するために使用した殺虫剤を回収し、米袋と一緒にビニール袋で密封し放置していたところ出火したもの
10月20日	新潟県	メタノール	○				1	鋳物用の塗料材（メタノール含有）を乾燥させるために火をつけた後、塗料材を火が残る鋳型に吹き掛けたため、引火し火災となったもの
10月20日	山口県	弗硫酸		○			1	配管取り付け部にライニング用接着剤が詰まっていたことに気付かず配管を離脱したため、滞留していた弗硫酸が漏れ出したもの
10月25日	熊本県	次亜塩素酸ナトリウム、水酸化ナトリウム			○		1	漂白剤を入れた水筒に蓋をして、約12時間後に蓋を開けようとしたところ破裂し、負傷したもの
11月1日	東京都	アンモニア		○			1	地下1階倉庫内のワインセラーから何らかの原因によりアンモニアが漏洩したもの
11月3日	東京都	アンモニア		○				居室内のワインセラーから何らかの原因によりアンモニアが漏洩したもの
11月4日	茨城県	ドロクロール（劇物）			○			畑に散布したドロクロール（土壌くん蒸剤）がガスになり付近の家屋に入り込み、居住者が目の痛み等を引き起こしたもの
11月15日	千葉県	フッ化水素			○		1	クリーニング店で従業員が漂白作業中、手袋に穴が開いているのに気付かず火傷したもの
11月16日	静岡県	黄りん	○					道路を掘削中黄りんが露出し、化学反応を起こして燃焼発煙したもの
11月16日	北海道	液化塩素		○			2	液化塩素配管の一部取替え工事を行ったところ、誤って工事対象以外の配管を切断し、液化塩素が漏れ出したもの
11月17日	北海道	水酸化ナトリウム		○				タンクローリーが乗用車に追突され、後部配管が損傷し水酸化ナトリウム水溶液が漏れ出したもの
11月18日	兵庫県	硝酸		○				硝酸廃液を帯電防止未処理の鋼製ドラム缶に注入したため、化学反応をおこし、ドラム缶が膨張、蓋の隙間から漏れ出すとともに、有毒ガスが発生したもの
11月21日	福島県	混酸（硝酸、硫酸）		○				出荷配管の老朽化により混酸が漏れ出したもの
11月28日	大阪府	塩酸		○				タンク底部から塩酸が漏れ出したもの。原因については、完成工事後のタンク内の付着物除去作業時に、底板のゴムライニングが傷つき、それに気がつかずに塩酸を入れたため底部が腐食し漏れ出したもの

12月2日	愛知県	一酸化炭素		○		1		ドレンシールボット底部のすみ肉溶接部の割れから、シール用水が流出したことにより、水封ができなくなり、一酸化炭素がろうえいしたもの
12月29日	広島県	硫化水素		○				地中の貝類等が腐食して硫化水素が発生し、地下水と共に配管継ぎ手から流入したもの
12月31日	東京都	アンモニア		○				住宅2階居室内のワインセラーから何らかの原因によりアンモニアが漏洩したもの